

一年を振り返って

(12月の第5例会)

14日の例会は、休会者の方にも是非出席をとお願いしましたが、残念ながら顔を見せたのが長谷川、宮嶋、岡部の諸氏の3名となりました。

ことしは、記録的な猛暑が続いて、11月に入ってやっと涼味が訪れたと思えば、すぐに冬の季節の話しが聞かされ、また12月には夏日の日があるぐらいでした。

前半の陽気では菊にとっては強い日差しのため生育が悪く、いつもは10月下旬には観ても恥ずかしくない大きさになっているのが、やっと親指の爪ぐらいになって花先が見える程度のため、今回も作品展への出品を取りやめとなりました。

このような状況のなかで幾つかの課題について話し合いのうえ、

○ 菊の会の現状では、

現在の構成が会員6名内休会2名、退会しての顧問7名で、このところ例会の出席が3名、以前は菊花展として飾り棚に20本ほどの菊花が飾れていましたが、コロナ禍以降天候不順もあって作品展には出品ができてもとでも3～5本程度でありました。

このような状況では、支部の同好会としての運営維持と披露が非常に難しいので、支部長には大変申し訳ありませんが、この辺で解散してはどの意向に纏まりました。

○ トロフィーの取扱いでは、

賞牌として当初、日本交通公社社長、ジェイティビートラベランド興行社長をはじめ、その後関係の会社・団体の役員から寄贈していただき、現在6基保存しております。

このトロフィーを菊の会のメンバーにそのまま配布しても先輩の記録が多いことから、現各自には何かと受け入れがたいと思われるので、これの名称と記録のパネルを取り外して、支部のご同意をいただいて順位勝敗のある現存の同好会に活用していただければと思います。

○ 菊花の取り組みでは、

菊づくりを楽しんでおられる方に、ことしの菊苗配布に国華園からの取得に種類が多く低廉で自宅配送など大変便利でメンバーに喜ばれたので、小生宮嶋が国華園の会員であることから、ご要望の方はご連絡をいただければお手伝いをいたします。

話し合いのなかで解散が纏まりましたが、菊の会も昭和56(1981)年に発足し令和6年を迎えて43年の長さがあり、幕を下ろすとなると楽しんで来た者にとっては全く寂しいものであります。



また、この程岡部禎之さんから暖かいおはがきをいただきました、ご本人が手塩にかけた菊をスケッチした「遅咲冬の菊」と銘打って描写したのが届きました。



以 上